

学科名	生物環境化学科						
科目名	有機化学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年次後期		
必修・選択の別	必修(バイオサイエンスコース)、必修(食品生物資源コース)、必修(エネルギー・環境コース)						
担当者	菅野 憲一						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・芳香属性について理解し、求電子置換反応と置換基による配向性を修得する。 ・ラル化合物の絶対立体配置(R, S表示)、対掌体、ジアステレオマーに関して修得する。 ・求核置換反応機構を理解し、種々の化学合成に応用できるようにする。 ・ルイス酸-塩基に基づくアルコール、フェノール類の性質を修得する。 ・エーテ、エポキシドの物理的・化学的性質を理解し、その合成法を修得する。 						
日程と内容	<p>9/16 授業概要の説明、成績評価法、有機ハロゲン化合物の求核置換反応。 9/30 SN2反応機構、SN1反応機構を修得。フィッシャー投影式、R-S表記。 10/ 7 E2脱離反応機構、E1脱離反応機構を修得。「cis,trans」、「Z,E」 10/14 アルコール、フェノール類の命名法およびその酸性度、塩基性を修得。 10/21 アルコールの脱水反応。Saytzeff則、Hofmann則にのった生成物。 10/28 アルコールの種々の反応 酸化反応など、アルコールの様々な反応を修得する。 11/ 4 エーテルの命名法、エポキシドの開裂反応 Williamson合成法を修得する。 11/11 アルデヒドとケトンの性質を修得する。IUPAC命名法による化合物名。 11/18 アルデヒドとケトンの水合～還元反応を修得する。 11/25 アルデヒドとケトンのGrignard試薬の付加～アルドール縮合を修得する。 12/ 2 カルボン酸の性質を修得する。 12/ 9 カルボン酸の反応を修得する。エステル化などの種々の反応式を書けるようになる。 12/24 アミンの性質を修得する。 12/24 アミンの反応を修得する。 1/13 第1回～第14回までのまとめ。例題を解きながら復習。 1/20 定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験 臨時試験 報告書・レポート 課題 演習	100%	実技 部外評価 プレゼンテーション	計	100%		
授業到達目標の達成度	到達目標に掲げられた項目は定期試験において試験された。その結果、合格率は97%と高く、かつ不受験、放棄を除外した不合格者を含めた評価対象者の平均点は81点であった。この数値は昨年度の79点を2ポイント上回った。以上のことから概ね到達目標を達成しているものと考えられる。しかし、食品衛生課程の必修科目であるため、欠席超過によって不合格となった受講生が複数出てしまった。						
反省点	授業内容を削減する事ができないため、授業中の演習問題などで理解を促進するように努めた。30分～1時間程度を想定した宿題を出すことで自己学習を促した。アンケートより、受講生の予習復習の時間も2時間であり、想定した時間よりも多い結果となった。ほとんど全ての学生が授業に大変、協力的であった。						
来年度の計画	受講生のご協力のおかげで静寂な授業環境を維持できた。短い時間内に効率よく理解するための工夫として、昨年度からmoodleを利用した演習を開始したが、これも改善を進めたい。これまで、宿題を課して次週に復習することで理解を深めるように心掛けたが、次年度はアウトプットの充実を図るために反転授業を取り入れる。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は昨年度の8.6よりも0.5ポイント下げて8.1となった。昨年度よりも広い範囲をカバーしたため量が多くなったことも要因と思われる。反省点を改善し、よりよい講義を目指します。						
履修登録者数	72名	定期試験 受験者数	66名	合格者数	64名	合格率	97%